



Closure report 2023

終了報告書

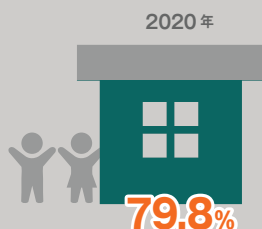
タンザニア連合共和国
ムゲラ地域開発プログラム
TZA-183537 (2006年～2023年)



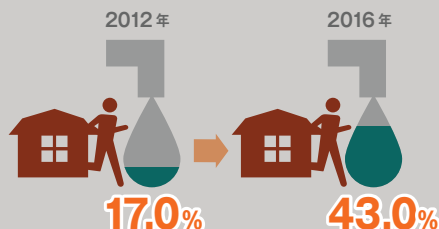
ありがとうございました

皆さまのご支援により、人々が変わり、地域が変わりました

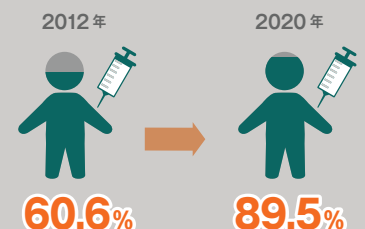
学校に通っている
7～13歳の子ども



自宅から30分以内で
安全な水にアクセスできる世帯



12～50カ月の
幼児の予防接種率



Education



教育

就学前から義務教育終了後まで、継続的に学べる環境が整えられました

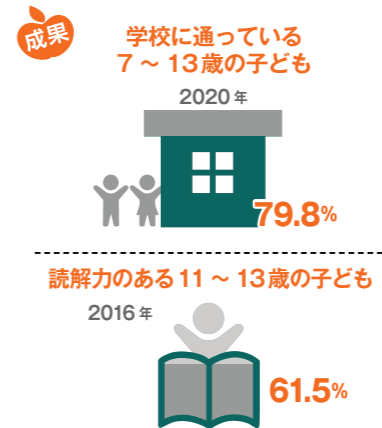
地域の学校では、机や椅子が不足するなど設備が不十分で、学習に適した環境ではありませんでした。また多くの家庭が学校から離れた場所に住んでいるため、小学校への入学率は低く、放牧を営む家族の移動に伴い退学してしまう子どもも多くいました。こうした状況を受け、ワールド・ビジョンでは、保護者に向けた教育の重要性を伝える啓発活動のほか、地方政府や地域住民と協働して学校の教室や水衛生施設の建設を行いました。さらに、子どもたちが楽しく学習するための読書キャンプや、就学前教育センターの開設、義務教育後も継続的に学ぶことができる職業訓練校の設置などの施策を実施した結果、子どもたちの学びの環境が大きく改善されました。



支援前 教室が足りないため、外で授業を受ける生徒たち



支援後 教室が建設され、机や椅子も提供されました



マネージャーよりごあいさつ



ムゲラ地域
開発プログラム マネージャー
モテスト・ケシー

17年前、ムゲラ地域がワールド・ビジョンの支援対象地として選ばれたのは、貧困、教育、保健・衛生など多くの課題を抱えていたためでした。また、女性や子どもの権利に反するような古くから伝わる慣習も、子どもたちの健やかな成長を妨げる要因となっていました。しかしワールド・ビジョンの支援が始まり、地域住民や行政との協働のもと様々な活動が行われた結果、今では人々の生活は改善し、子どもたちを大切に育てる環境が整えられています。こうした変化を成し遂げることができたのは、チャイルド・スポンサーの皆さまからの温かいご寄付のおかげです。長きにわたるご支援に、心から感謝いたします。

Water



水衛生

安全な水にアクセスできるようになりました

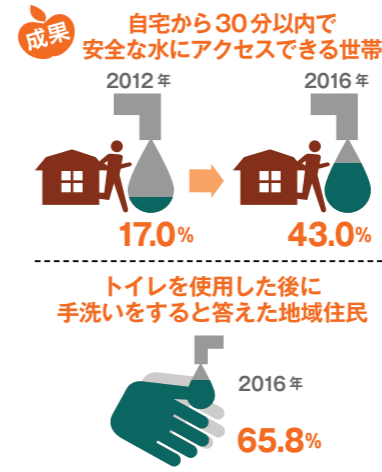
地域にある19の村のうち、安定して水を得られる村は3つしかなく、特に乾期には、女性や子どもが3～4時間もかけて水を運ばなければならないなど、安全な飲み水の入手は深刻な課題でした。また、手洗いの習慣や、くんできた水を適切に処理する知識もなかったため、多くの幼い子どもたちが下痢などの症状に苦しんでいました。チャイルド・スポンサーシップの支援を通じて、井戸や雨水を溜めるタンクやパイプラインの設置を行い、トイレや手洗い場を整備しました。地域の人々に対しても、水管理に関する研修を行い、住民自らが水供給システムの維持管理をする体制を整え、同時に手洗いや屋外排泄根絶のための啓発活動を行いました。



支援前 水源として利用されていた水たまり



支援後 支援によって設置された給水所



Health & Livelihood



生計向上、保健・栄養

安定した収入確保と、子どもたちの健康の改善を実現しました

地域住民のほとんどが農業を営んでいますが、伝統的な農法に頼っていたため、収穫量が少なく、多くの世帯で十分な収入を得られずに栄養不良に陥る子どもがたくさんいました。そこで、特に貧しい世帯を対象に点滴灌がい(※)による農法を導入したほか、グループでの共同経営や小規模貯蓄グループの設置などの取り組みを行った結果、安定した収入を得られるようになりました。保護者に対して、栄養価の高い幼児食の調理法や、予防接種の重要性などについての研修・啓発を行う一方、保健スタッフや宗教リーダーに向けて、母子保健の基礎に関する研修を実施し、地域住民の意識の変革を担う人材を育成しました。

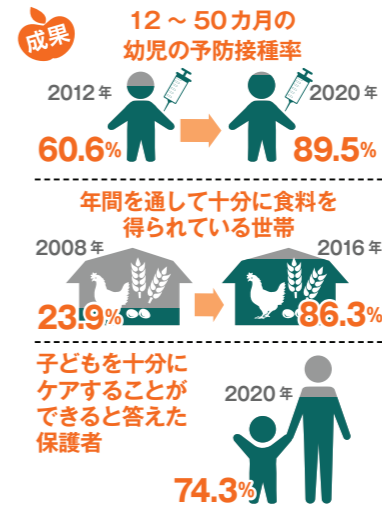
(※点滴灌がい：畑のうねまでパイプを伸ばし、作物に水を供給するシステム。この地域では高い位置に雨水を貯めるタンクを設置して、そこから重力で配水をしています)



支援後 キャベツの栽培方法を学んだ農家グループ



支援後 栄養価の高い幼児食の調理法を学んだ母親グループ



地域代表者からのごあいさつ



地域リーダー
アブダラ・アリー・センダロ氏

ワールド・ビジョンの支援が始まる前、地域の学校では子どもの数に対して教室が不足しており、生徒たちは狭いスペースで身を寄せ合うようにして授業を受けていました。そのような環境では勉強に集中できず、学力もあまり伸びていませんでした。しかしチャイルド・スポンサーの皆さまのお力添えによって、今では教室が増え、また机や椅子なども整備されて、子どもたちにとって快適な学習環境を整えることができます。こうした支援の成果を引き継ぎつつ、今後は地域住民が主体となって、トイレなどの衛生施設を整備したり、学校給食を開始したりと、より良い学校、地域づくりを進めてまいります。これまで支えてくださり、ありがとうございました。

Child Protection



子どもの保護

子どもの保護に関する知識と理解が深まりました

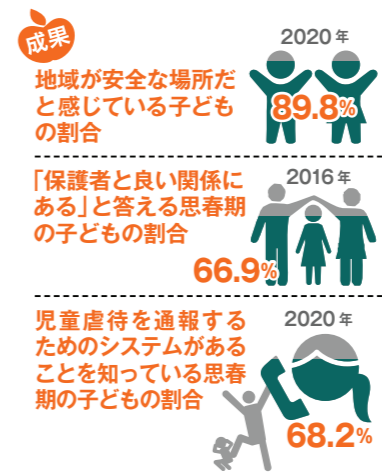
この地域では、古くからの慣習である児童労働や児童婚が続いており、子どもたちが安心して健やかに育つための環境が整っていませんでした。こうした状況を改善するため、チャイルド・スポンサーシップの支援を通じて、村ごとに「子どもと女性の保護チーム」を設置し、地域住民および宗教リーダーに向けて子どもの保護に関する研修を行いました。また地域住民による啓発活動や、子どもたちの意見が地域の課題解決に反映される場を作るなど、様々な取り組みを実施した結果、子どもの保護に関する知識や認識が高まり、児童虐待の早期発見や通報につながるようになりました。



支援後 村人を対象に実施した、指導者研修の様子。子どもの保護に関する活動の計画・実施・評価について学びます



支援後 女の子に対する危険な慣習を廃止するための啓発活動



皆さまとともに歩んだ17年間の支援と成果

準備期
2006年度
▼
2010年度

- ◎ 支援対象地域での状況やニーズの調査
- ◎ 地方自治体および地域住民と共に、調査結果に基づく支援実施計画の立案
- ◎ 支援計画を遂行するための委員会の設立



支援開始前に人々が利用していた水源



どのような活動をしていくか、地域住民が意見を出し合います

第1期
2011年度
▼
2014年度

- ◎ 農業や養蜂の技術を学ぶ研修を実施
- ◎ 保健施設の建設および、妊婦用ベッド6床を配置するための工事
- ◎ 小学校に488台の机を提供
- ◎ 小学校に1,869冊の教科書を提供



マンゴー農園を営む男性



ワールド・ビジョンの支援によって建設された保健施設

第2期
2015年度
▼
2018年度

- ◎ 飲用に適した安全な水を得られる水設備を2カ所に建設し、設備の維持・管理を行う水委員会を発足
- ◎ 子どもたちの栄養状態を改善するため、栄養グループの活動を実施
- ◎ 地域の小学校に、3つの教室と職員室を建設
- ◎ スポーツや遊びを通じた青少年教育
- ◎ 保健センター1棟を建設
- ◎ 職業訓練センターの設置
- ◎ 生産者グループを設置し、技術支援研修を実施
- ◎ 降雨量が少なく、食料が不足する時期に食料支援を実施



小学校に建設された教室



スポーツを楽しむ少年たち

第3期
2019年度
▼
2023年度

- ◎ 保健センターの建設と、医療機器の調達支援
- ◎ 小学校にバリアフリー機能を備えたトイレの建設
- ◎ 小学校に4つの教室と職員室を建設し、200台の机を提供
- ◎ 3歳から6歳までの子どもたちの読み書きの能力を向上させるための、読書キャンプを実施
- ◎ 宗教リーダーを対象とした、子どもの権利と保護に関する研修の実施
- ◎ 飲用に適した安全な水を得られる水設備を2カ所に建設
- ◎ 支援終了後の各活動の移行計画に関する、関係者との話し合い



小学校に新たに建設されたトイレ



小学校に提供された机

支援を受けたチャイルドのストーリー

「生まれ育ったこの地域を、もっと良くしていきたいと思っています」

タトウさん
(23歳)

首都ドドマの大学で環境管理学を学ぶタトウさんは、幼いころから勉強が大好きな女の子でした。しかし、彼女が暮らしていた地域には、女の子は早くに結婚させるという慣習が根付いており、多くのおとなが女子教育には否定的な考えを持っていました。

その後ムゲラ地域でワールド・ビジョンの支援活動が始まり、教師や保護者に向けた、教育の重要性を訴える説明会や、学用品の提供、学校の教室の整備などの施策が次々と進められていきました。タトウさん自身も「ピア・エデュケーション」と呼ばれる、同世代の仲間同士で学ぶプログラムに参加し、自尊心を持つことの大切さ、女性器切除のような有害な慣習から自分を守る方法など、たくさんのお話を学びました。「様々な活動に参加する私の姿を見て、両親も女の子の教育の大切さを理解し、サポートしてくれるようになりました」

「今後は、地域の女の子たちのロールモデルとして頑張りたい」と話すタトウさん。「今の私があるのは、チャイルド・スポンサーの皆さまのご支援のおかげです。私の夢は、自分の会社を経営して、雇用を生み出すことです。そうすれば、農業に依存しない収入源ができますし、子どもたちが良い教育を受けられるようになるからです。生まれ育ったこの地域を、もっと良くしていきたいと思っています」

